

香港の

子どもたち

○今年の一月から三月にかけて香港に遊んだ時の、偶見偶感の中から、子どもに関連したものを、断片的ではあるが拾録してみる。

○香港は百二十年程前までは、人口稀薄な南海の辺陬であったのが、阿片戦争で、英国領に帰して以来、驚異的發展を遂げた。地域は日本の一番小さい県にも及ばぬ位だが、港の両側に対峙するヴィクトリア市と九龍市とは殷賑を極めて、人口二百五十万、外側の租借地を加えて三百万を越え、世界中で人口最も稠密の地と言われる。英国は香港の位置と良港とに着目したらしいが、その後は軍事的よりも経済的の意義が認められ、殊に中国の門戸閉ざされてよりは中共貿易の唯一の窓口であり、また中共事情研究の触覚としても独占的機



野口明

能を發揮している。恐らく香港は今が全盛期で、正に一流の国際都市として我が世の春を謳歌するかに見える。

○外容は華やかに見えるが、香港の生態には幾多の暗影が覗われ、随所に不均衡と不安とが潜んでいる。英国のれっきとした領土であるが、また植民政策としては成功したと思いが、植民地という本質の弱点は如何とも為し難い。公私の仕事の指導者は英人で、その外に各国の外交官や民間商社の人々が在り、また富裕な華僑や亡命者が集っている。これらを上層階級としその下には層の薄い中層階級がある外、大多数は下層階級である。通じて九十九パーセントは中国人で、大多数は文字通りに陋巷に貧窮生活を営んでいる。私は毎日出歩いてスケッチを楽しんだが、それは全く、中国人の陋巷生活

に漂う画趣を追うたのであった。

○ 香港の中国人は、農漁村を除けば殆んど移住者である。勿論子どもは殆んど香港生まれであろうが、父母や乃至は祖母は他地方から来ているであろう。香港には建国の歴史はなく、郷土感情は無く、ただ生活があるばかりである。彼らにとって香港は商売のための、労働のための、即ち生活のための一時的寄留地に過ぎない。我々からするとまことに頼りないが、彼らはそれに慣れて、或いは人生はそういうものと割り切っているかもしれない。ともかくも彼らは南国の光を浴びて、比較的豊富な食料品に恵まれて、簡易な生活を苦にしないで結構現実生活を営んでいる。英国領ではあるが、中国的伝統が残っているのは、この民族の生活力の強靱さを物語るようである。

○ 母親が幼児を背におぶる姿は私の好きなポーズであるが、中国人も日本人も同じである。特におもしろいと思つたのは、東北地方で俗に亀の甲と呼ぶ背の子だけを温める袖無しカブの被衣カブを纏うことである。中には色房を垂らしたり、詩句を書いたりしたものもあって、中国らしい趣向に微笑せしめられた。子どもの頭髮は、周囲を剃ったり茶筌カブに結ったりしたのも少しは見た。母親の頭髮は日本同様、田舎でも電髪が大流行であった。

○ 街頭で見る子どもの遊びには、メンコ、貝ガイ、石蹴り、羽子蹴りなどもあった。羽子蹴りは足首の内側で羽子をつく中国特有の遊びで、なかなか器用なものである。中学生以上になると球戯は盛んで、特にサッカーは代表的スポーツである。空地が少ないのでテニスコート位の狭い空地でも結構サッカーを遊んでいた。

○ 漫画はこの国に行っても子どもの好むものか、香港でも街頭に漫画の貸本屋が出ていて、多数の子どもたちがその周囲に踞すわりて見耽みだっていた。本は郵便ハガキよりも小型の粗雑な横本ばかりで、内容は笑話の外に、怪奇談、歴史談、民話などであるらしい。説明は漢字であるのに、さっと見てすぐ次の頁を繰る速度の速いのに驚かされた。子どもには無学も少なくなさそうだから、絵だけで筋を追っている者もある。

○ あえて無学と言ったえゆんは、街頭は午前中から子どもで賑合うからである。中共大陸は文盲絶滅の政策が励行されているやに聞くが、植民地の香港ではそこまでいっていないようである。幼稚園は外人経営の、小学校と一しょにしたようなものが少しある程度で、自動車で通学する上層階級の領域である。小学校も公共のものではなく殆んどが私塾で、アパートの一角や、商店の一軒を借りて、従って運動場などは持

たないのをずいぶん見た。中学以上も似たりよったりで、ただミッションスクールには相当の規模のものがある。総じて子どもの人口に比して学校数は乏しいから、日本の如く誰もが正規の教育を享受するようにはいっていない。

○ 上層階級の子弟は殆んどが外人経営の学校に行くから、英語も達者になるし、学力も順調に延びるようである。十歳の位の男の子で、英詩の朗読競技で受賞したと新聞に出ていた子どもに会ったが、その語学は勿論、その言動の老成振りに全く驚かされた。香港大学はこうした秀才を東洋各地の華僑から集めているらしく、学生の素質はなかなかよいと聞かされた。

○ 香港は住宅難と簡易生活から、下層階級には炊事場を持たないのが相当あるらしく、街頭に多い屋台の食べものは朝から繁昌する。食事は米飯を主食とし肉や魚を副食とし、大体日本と同じである。また麵類も大いに代用食として幅を利かしている。その他間食ものとしては、焼肉（鳥獸）、煮鳥賊、おでん、飴、ドウナツ、糝粉とんこなどによく似たものがある。子どもが多いが、背広を着たおとなが、それらを立喰いするなど、街頭で物を喰べることは平気のようである。

○ 玩具や文房具は日本品がずいぶん入っている。郊外の村に行っても日本の仮名の入った商標のクレヨンなどを売って

いた。しかし日本品は粗悪品が多く、英国品独乙品の如く上品で堅牢なものではなかった。文房具は事務用品は別として、教育用品は日本のものが種類も数量も多いように見えた。

中国人は商利には敏いかもしれないが、總体的に穩かである。私が写生していると、日本と同様に子どもが蝟集するが、喧嘩したり、悪戯したりして困らせられることはなかった。乞食のように金をせがまれると注意を受けたが、そうした経験もしなかった。殆んどが、愛すべき中国人の子ども達であった。

○ 痾く瘵病や、跛者びこや、盲者等の不具者は日本より多いようで、幼児時代の治療施設の程が想像された。写生していたら背後から盲者**にぶつ**かられて驚いたことがあったが、日本では経験出来ないことである。

○ 要するに、香港は遊びに行くにはよい所である。東洋西洋の対照もおもしろいし、水陸の風光も美しい。高級品は無関税のためとかで、旅客の買物天国の由である。しかし永住すべき土地ではあるまい。今日の繁栄もいつまで続くことか。私はそこに育つ子どものために一抹の同情を覚えざるを得なかったのである。

* * *

（前お茶の水女子大学長）